



福島県 桑折町 歴史散策

献上桃の郷

“独眼竜”に繋がる歴史が
ここに始まる



	仙台	東北自動車道[45分]	国見IC	国道4号[5分]	桑折
	東京	東北自動車道[210分]	福島飯坂IC	県道[20分]	桑折
	仙台	東北本線(普通)[60分]			桑折
	東京	東北新幹線[90分]	福島	東北本線(普通)[13分]	桑折

桑折町役場まちづくり推進課

〒969-1692 福島県伊達郡桑折町字東大隅18番地 TEL 024-582-2111 FAX024-582-2479

E-mail machisuishin@town.koori.fukushima.jp

<http://www.town.koori.fukushima.jp/>

こおりまち

検索

TOWN KOORI HISTORY GUIDE BOOK

桑折西山城跡
東(向かって右)から
本丸・二ノ丸・中館・西館と並ぶ



伊達氏関連遺跡

伊達氏発祥の地



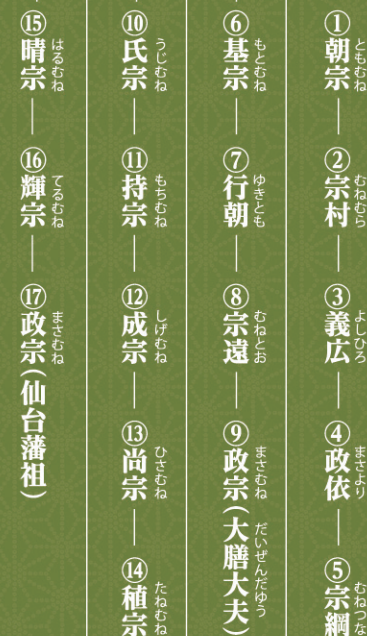
東北の中世の
幕明けを告げる寺院と
戦国時代の山城



天文の乱 戦況年表

- 1542年 天文の乱勃発、植宗、晴宗によって
西山城に幽閉されるが脱出、懸田城
に籠城
- 1543年 植宗方、信夫郡方面で晴宗方を破る
- 1544年 山形の大名義上氏、植宗に味方して
伊達領へ進軍
- 1546年 晴宗が西山城退去、植宗が復帰し、
勝利を宣言する
- 1548年 室町幕府の仲裁により和睦成立、晴
宗が家督を継ぎ、植宗が隠居するこ
ととなる
- 和睦の条件として、西山城は破壊す
ることとなり、晴宗は米沢に居城を
移す

伊達氏系図



伊達氏発祥の地



▲4人の息子を戦場に送り出す伊達朝宗
朝宗親子は奥州藤原氏家臣
佐藤氏を破る大手柄を立てました

❖ 受け継がれゆく伊達の魂 ❖

仙台藩祖独眼竜政宗を生み出した伊達氏は、源頼朝の奥州藤原氏攻めの手柄により、伊達郡を根拠地とし、東北最大の大名にまで発展していきました。

伊達氏の初代朝宗は、常陸国(現茨城県)の武士でしたが、奥州合戦後、伊達郡に入部しました。朝宗は、源頼朝が藤原泰衡を弔うために建立した永福寺にならい、同じ文様の瓦を使って寺院を建立しました。その寺、後に朝宗自身の菩提寺となり、満勝寺と号しました。



▲伊達朝宗と瓦葺き寺院
朝宗が建立した寺は、源頼朝が建てた寺と同じ、特別な瓦で屋根が葺かれたいた



▲「塵芥集」制定のとき、桑折西山城本丸の建物で
12人の家老の前で花押を据える植宗

伊達氏4代政依は、先祖および自分自身のための菩提寺として、5つの寺を建立しました。その後、多くの寺は、米沢や仙台に移されましたが、観音寺だけは、地元に残り、江戸時代になって再興されました。

伊達氏14代植宗は、名実ともに東北地方最大の戦国大名となり、本拠を梁川城から交通の要衝の桑折西山城に移しました。植宗は、家法「塵芥集」を制定して、領国体制を固めます。



▲桑折西山城を奪還し、勝利宣言する植宗
植宗は、懸田城などを拠点に晴宗を攻め、
5年目に桑折西山城を奪還した。

しかし、植宗は、突如、息子の晴宗によって桑折西山城内に幽閉されました。戦国大名伊達家でも下剋上が起きたのでした。救出された植宗は、ただちに反撃に転じ、桑折西山城の争奪戦となりました。

勝敗は一進一退で進みましたが、最後は事実上の晴宗の勝利に終わり、戦後桑折西山城は廃城となり、伊達氏は米沢に移っていきました。



▲桑折西山城を後にし、米沢へ向かう晴宗と家臣たち
植宗との講和の条件で、晴宗は本拠の桑折西山城を壊し、
新天地米沢をめざします



▲伊達種宗
(仙台市博物館蔵)

今も生き続ける伊達の軌跡。



▲伊達朝宗
(仙台市 満勝寺蔵)



▲観音寺観音堂
現在の堂は元禄2年(1689)の建立



▶奥の院安置・聖観世音菩薩坐像(観音寺)
三十三年に1度の開帳の秘仏



◀下万正寺遺跡出土瓦
鎌倉に源頼朝が建立した
寺と同じ文様です

▶伊達朝宗の墓所
伊達朝宗の墓所周辺は
菩提寺の満勝寺の跡



伊達郡に始まる 伊達文化



▲天文の乱に勝利した15代目晴宗により
本拠地とされました



▲14代種宗が領国の要に築いた
山城です

COLUMN

伊達の家紋「竹に雀」

この家紋は天文11年5月に、西山城で伊達家が
上杉家から拝領した家紋が元になっています。
(伊達家より家紋使用許可済)



▲名実ともに東北最大の大名
となった17代目「独眼竜」政宗が
築きました



▲源頼朝が奥州藤原氏に勝ち、伊達氏が入る
きっかけとなったところです

羽州街道

桑折町

国見町



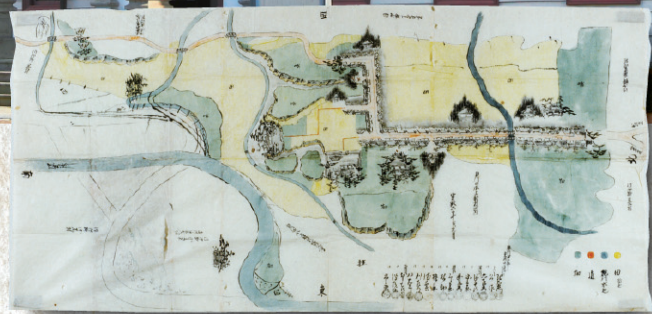
伊達市



▲11代持宗から14代種宗が西山城に移るまで
4代100年の居城です

福島
の
維
新
を
支
え
た
町

桑折宿



▲江戸時代の賑わいを伝える街道と
江戸時代の桑折

奥州・羽州街道の追分

旧伊達郡役所



▲諏訪神社例大祭
7月末の例大祭では山車が祭りを盛り上げます



▲桑折寺山門 桑折西山城の門を移築したとの伝承を持っています



▲無能寺 御蔭廻松(みかげのまつ)



▲伝来寺の梵鐘
伊達五山 東昌寺
ゆかりの鐘



▲江戸時代の桑折宿

❖ 交通の要衝・桑折 ❖

江戸時代の「桑折宿」として発展した現在の桑折町中心市街地は、伊達氏が桑折西山城を築くのに合わせて町が立てられたのがはじまりです。

宿の北で、東北地方の二大幹線街道であった「奥州街道」から、「羽州街道」が分岐する交通の要衝でした。宿場の南端と北端には、枡形と木戸が設けられていました。本陣は本町の東側にあった佐藤新右衛門家がそれに充てられました。



▲桑折代官所跡解説板(桑折町文化記念館)

桑折宿には、半田銀山ほか周辺の幕府領を治めるための代官陣屋が置かれました(現在の旧伊達郡役所東側、陣屋の杜公園北側の住宅地)。

また、蚕種本場として繁栄した養蚕地帯の物資の集散地となり、政治・経済の中心となりました。

明治になっても、海外への輸出主力商品となった生糸を生産する養蚕地帯として、そして五代友厚が近代化を成功させ、国内最大の銀鉱山とした半田銀山の経済活動を担う地域の中心地として栄え、明治16年(1883)には、伊達郡役所が移設されました。同じころに、警察署や戸長役場、桑折学校が擬洋風建築で造られたり、導入され、梁川、保原、飯坂への道路が建設されるなど、地域の近代化の先頭に立つ町でした。

桑折村の鎮守であった諏訪神社



▲追分の道標



▲奥州羽州街道追分
右の奥州街道を行くと仙台・盛岡、
左の羽州街道を行くと山形・秋田・弘前、
2つの街道は青森郊外の油川で再び合流します



▲法圓寺
芭蕉の田植塚

の例祭では、5つの若連が競って山車を引き、囃子で祭りを盛り上げます。山車飾りには、桃の木を揚げ、桃を模した花飾りがつけられます。平成4年(1992)からは、本社の諏訪大社を模して、御柱祭も行われるようになりました。



▲諏訪神社 御柱里曳
7年に一度、例大祭に合わせ
とり行われます



▲諏訪神社



▶大安寺の山門
梵鐘が町の文化財

不毛の台地を美田に変えた2筋の水路

西根堰

西根下堰
堰建設前は松林だった
大字松原付近



▲旧山八別荘園路脇の水路
渓流に見立てられている(陣屋の杜公園)

土木遺産にも輝く 精密な測量技術

▶勾配が緩やかなため、
水が山を登るように見える
西根上堰(大字成田地内)

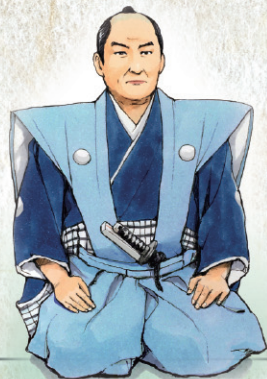


▲西根堰工事の指揮をする
古河善兵衛と佐藤新右衛門

❖ 不毛の地が黄金色に輝くまで ❖

江戸時代はじめまでの桑折町周辺は、産ヶ沢川や佐久間川などによる扇状地による台地であったため、水利に乏しい地域でした。米沢藩支配下の時期に、西根郡役を務めていた佐藤新右衛門らの尽力で、2本の農業用水路が開発されました。

最初に引かれたのは、低い位置を流れる「西根下堰」で、福島市飯坂町の摺上川から桑折町伊達崎で佐久間川と合流するまでの14kmの用水路で、元和4年(1618)に完成しました。



▶ 佐藤新右衛門



▲西根上堰の芝堤頭首工

次いで、同じく摺上川の飯坂町穴原で取水し、桑折町万正寺の芝堤を経て、国見町を横断し、伊達市梁川町五十沢までの29kmにわたる「西根上堰」が造られました。このときは、米沢藩福島代官古河善兵衛も協力し、およそ10年の工期をかけて、寛永10年(1633)に完成しました。

2つの堰の完成により、西根台地上に多くの水田を開くことが可能となり、新田開発を奨励していた米沢藩の財政財政再建に貢献しました。葛の松原として和歌にも謳われた松

の美林が広がっていた松原村(現大字松原付近)も、水田の開発が進み、新たに牛沢村が建てられるほどでした。

西根堰によって灌漑できない阿武隈川の自然堤防上や、旧河道で隔てられているところでは、逆に乾燥した砂地に適した桑を栽培し、養蚕業が衰退していくと、モモを中心とした果樹地帯へと変貌していきました。

西根上堰は、桑折宿の生活用水としても利用されていました。一部の家では、西根堰からの水を池に通したり、水路そのものを庭園に取り入れたりしていました。

▲旧平沢屋庭園
桑折宿には西根堰から引かれた水路がめぐられ、生活用水として使われました◀ 葛の松原碑(松原寺)
葛の松原と詠われた松林が広がり、寛英僧都ゆかりの地として歌枕の地でした。松原寺には、福島藩士河原栄機によって、葛の松原碑が建立され、葛の松原和歌集が奉納されました。

COLUMN

西根上堰の緩勾配と開発伝説

西根上堰は、水路勾配が1/1,000~1/3,000という、平坦に近い緩勾配で設定されています。あまりになだらかなため、「夜に人夫に松明を持って立たせ、信天山から眺めて路線を決めた」という伝説を生みました。また、硬い岩盤の続く掘削のときには、「半田銀山の鉱夫に金をつかせながら掘らせた」という伝説も持っています。いずれも信ぴょう性はありませんが、江戸時代はじめに、優れた測量技術と土木技術によって造られ、世間を驚かせたということがわかります。この特徴から、平成22年(2010)には土木学会によって選奨土木遺産に認定されています。

奥州蚕種本場

献上桃の郷

桃源郷とたわれる
春のモモ畑

▲桃の収穫

桑畑から果樹畑への
華麗なる転換



▲行幸啓記念碑



▲蒸気のサクラ
阿武隈川旧河道、蒸気船の船着き場に
植えられたシダレザクラ

❖ 桑折の誇り、絹糸と献上桃 ❖

高級な布地のシルクは、絹糸を織って作られています。この絹糸は、ガの一種のカイコガの幼虫(蚕)が繭を作るために出す糸から作られますが、信達地方は、古くからこの蚕を飼育する養蚕の盛んな場所として知られていました。特に、伊達崎の阿武隈川氾濫原では、蚕の餌となる桑の栽培に適していたことから、江戸時代中ごろから蚕の原料というべき蚕の卵(蚕種)の生産が盛んになり、幕府より蚕種本場に認定されるほどでした。明治になり生糸が日本の主力輸出品目となると、全国屈指の養蚕地帯として君臨するようになりました。

伊達崎では、古墳時代の遺跡・沖船場遺跡から糸をつむぐための道具(石製紡錘車)が出土していますので、たいへん古くから養蚕による生糸生産が行われていたものとみられています。江戸時代の中ごろからは、



▲いぐねに囲まれた養蚕住宅
2階建または中2階建てで、風通しの良い蚕室を
設けていました。

関東地方に代わって日本の代表的な養蚕地帯となりました。明治には、信達地方で造られた生糸は、横浜から欧米諸国に輸出されました。

明治末期ごろから、生糸の価格が暴落し、また不況の影響もあって、信達地方の養蚕は衰えましたが、桑畑を果樹、おもに桃やりんごに植え替えて、転作を図りました。伊達崎で



▲満蔵寺の馬鳴堂 養蚕の仏様馬鳴菩薩が安置されています。伊達崎地方の養蚕は、江戸時代中期まで養蚕が盛んだった関東地方が洪水で壊滅したため、養蚕業者たちが伊達崎に避難し、馬鳴堂で養蚕を再開し、商標を「如来堂」としたときから盛んになったという伝説があります。



▲献上桃の選果式

は、特に土地が桃の栽培に適していたため、桑畑は一面に広がる桃の果樹畑へと変わっていきました。

桑折の桃は、品質が良いことで知られ、平成6年(1994)からは、皇室・皇族へ桃を献上する産地として県より指定を受け続けております。平成28年には、「献上桃の郷」として商標登録を果たしています。

COLUMN

阿武隈川の流通の歴史

江戸時代前期に開かれた阿武隈川を航行する舟運は、街道による陸上交通とともに主要な交通形態でした。現桑折町内には、桑折河岸・上郡河岸・伊達崎河岸があり、特に上郡河岸は幕府領だった出羽国屋代郷(現山形県高畠町)の年貢米の積み出し場となっており、蔵と役所が置かれていました。

明治になると、今度は蒸気機関を搭載した蒸気船による舟運も始められましたが、明治20年(1887)に鉄道が開通すると、物資輸送手段が移ってしまい、廃止となりました。

▲献上桃

日本三大鉱山

半田銀山



▲半田山自然公園

町山鉦響く子囃園祇



▲八幡神社での祇園囃子演奏(田町祭囃子保存会)



▲半田銀山遺跡にある五代神社

◀半田地区に残る
半田銀山経営会社弘成館主五代友厚の肖像



▲五代友厚と半田銀山

❖ 幕府の財政を支えた山 ❖

江戸時代初期に本格的に開山され、中期には幕府の直営として栄え、佐渡金山、生野銀山とともに「日本三大鉱山」のひとつにも数えられた半田銀山。幕末に一度閉山となりましたが、明治に入ると、薩摩藩出身の五代友厚により再興され、近代技術の導入によって、明治16年(1881)からは産銀高日本一を記録するなどしました。

江戸時代の半田銀山は、幕府直営で、桑折代官がその経営に当たりました。明治に経営を始めた五代友厚は、明治天皇の東北行幸の際、半田銀山来山を実現させています。

北半田の益子神社、南半田の八幡神社の祭礼で披露される祇園囃子は、江戸時代後期に京都からもたらされたといわれています。もともとは、半田銀山からの鉱毒除けのため、銀山の鉱夫たちに祭りに参加し

てもらい、地域を活性化するために導入されたといわれ、銀山と強い繋がりのある祭り囃子です。

鉱夫として働くために、山形や新潟などの遠方から人が集まり、銀山地区の人口は、3,000人にも達したといわれています。また、銀山で使う坑木や道具、食糧を納入するため、材木業や鍛冶屋、醸造業などが栄えました。また、鉱夫たちは、休みには、桑折宿で飲食をしたといわれています。



▲中舗の坑口



▲中舗内部 ※立ち入りはできません。



▶半田銀山遺跡の鉱石運搬軌道橋脚石垣(左)と女郎橋(右の水路に架かる擬木橋) 桑折宿の女郎が半田銀山から来た上客をここまで見送りに来たという伝説がある。

▲半田銀山遺跡に立ち寄る益子神社の神輿渡御(五代神社前)

▶明治天皇行幸記念碑(半田銀山遺跡)



COLUMN

半田銀山と五代友厚

日本経済界の近代化に尽力した異色の維新の志士・五代友厚は、経営する鉱山会社弘成館傘下の鉱山として、東日本で唯一、半田銀山を経営しました。五代は、薩摩藩士時代に長崎や英国で学んだ近代技術を導入し、近代鉱山として生まれ変わらせました。

地元に懸念された鉱毒や濁水対策を行い、救民や学校建設のための資金の寄付を提案し、銀山開発が日本の殖産興業に貢献することを説くため、明治天皇の行幸まで成功させています。また、当時の鉱山は近代技術の塊でした。坑内で使用する坑木やツルハシ、タガネなどの道具、鉱石を製錬するための機材となる金属部品や桶、樽などの製品、焼成場を作るための煉瓦など、様々な製品が銀山に納品されました。「はんだづけ」の由来が半田銀山であるといわれるようになったのも、その技術によるものかもしれません。

五代友厚は、これまで「政商」と呼ばれ、歴史上、批判的に評価されてきました。しかし、半田では、「五代様」として、小祠に祀られるまでの人物となったのは、半田に残した功績によるものでしょう。

桑折遺産探訪

桑折町には他にもたくさんの歴史遺産が存在します。
いまでも色濃く残る数々の遺産を巡って、
桑折が重ねてきた歴史に想いを馳せてください。



万正寺の
大カヤ

桑折西山城跡の麓、坂町地区の入口にそびえるカヤの木の巨樹です。樹齢は不明ですが、樹高15m、幹回り8.23m、枝張り18.9mもあり、全体の規模では全国一のカヤの巨木とされています。根元付近には、鎌倉時代末期から室町時代初期に瀬戸(愛知県)で焼かれた瓶子が埋められ墓所となっていたようです。伊達氏との関係をうかがわせる伝説もあります。



錦木塚古墳

6世紀末から7世紀初頭に築かれた豪族の墳墓です。前方後円墳という形式の古墳で、棺を納めていた石造の部屋は、飛鳥(奈良県)にある石舞台古墳(蘇我馬子の墓といわれています)とよく似た築き方をしています。ここから国見町塚野目にかけては、古墳がたくさん残されています。



▲江戸時代の桑折が描かれた、谷文晁筆「半田銀山之図」

桑折町種徳美術館

旧伊達郡役所の敷地内に昭和60年(1985)に設置されました。明治期の東北を代表する豪商で、山八銀行などを設立、貴族院議員としても活躍した三代目角田林兵衛が収集した美術品と美術館建物を町が角田家より寄贈を受けて設立されています。コレクションは角田家寄贈の日本画を中心に、町内外から集められた絵画・書・彫刻が公開されています。



蓬田半左衛門の墓所

寛延2年(1742)信達地方の幕府領で起こった百姓一揆の指導者・伊達崎村の蓬田半左衛門の墓所です。半左衛門は、長倉村(伊達市)の斎藤彦内、鎌田村(福島市)の猪狩源七らとともに、連年の不作のため、年貢減免を求めて桑折代官所に詰め寄りました。一揆の様子は、明治になって、「天狗回状」という講談にも取り上げられました。

佐藤新右衛門の墓所
(大安寺)

江戸時代初期、農業用水路の西根堰を開削し、新田開発に多大な貢献をしました。その後、古河善兵衛とともに、福島市飯坂町にある西根神社に祀られました。



桑折代官
寺西重次郎封元の墓所
(無能寺)

前任地塙の代官時代から、稀代の名代官として慕われていました。桑折代官は重要ポストだったため、実績を積み上げた名代官や、有能な代官が多いのが特徴です。



つつじヶ岡遺跡

伊達氏が信仰した菅原神社(天神社)跡とされる遺跡です。



羽州街道跡

幕末に半田銀山経営を行った早田家旧宅の北側に、桑折から出羽国に至る羽州街道の旧道が残されています。

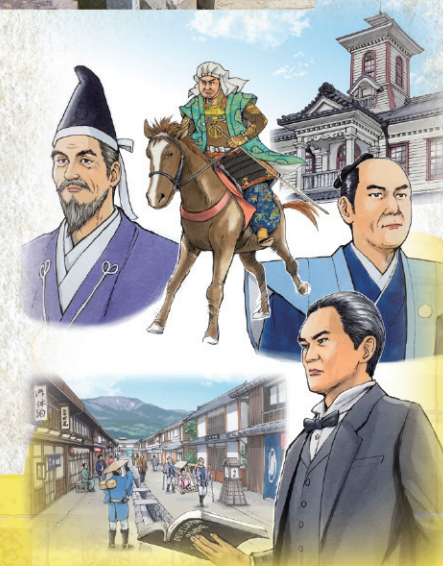


イラスト:宮本 明彦

桑折町 特産品 ガイド

桃ふく

特産品の桃の果肉を白あんと生クリームで丁寧に包み込みました。桃の食感ともちもちとした餅の新しい新食感スイーツです。

◆大野屋菓子舗
TEL 024-582-3165



純米吟醸酒「辛口 桑折」

桑折町で育てられた県のブランド酒米「夢の香」と奥州山系 半田山の地下水「香村金剛水」を使用した香り豊かなお酒です。
※要問合せ

◆桑折醸会(リカーショップ旭屋)
TEL 024-582-3379



桑折町産農産物

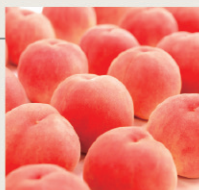
季節ごとの美味しさをお楽しみください！

桑折町では、桃やりんご、あんぼ柿のほかにも、いちご、ぶどう、プラム、トマトなど、いろいろな農産物を生産しています。

桃(あかつき)

皇室に献上されるほど上質で、大変甘くて美味しいと評判です。2味も3味も違う桑折産の桃をぜひご賞味ください。

収穫期
7月下旬～8月上旬



りんご(ふじ)

桑折産の「ふじ」は、硬めの果肉の中に甘さとほんのり酸味が絶妙に閉じ込められた、美味しい林檎です。

収穫期
11月上旬～12月上旬



りんご(王林)

桑折町で誕生した青林檎です。香りがとても良く、甘みもあり良質な林檎です。

収穫期
10月下旬～11月上旬



あんぼ柿

ひらたね柿は、小粒で甘みが強く、種がないのが特徴。トロリとした舌触りで、上品な甘さとしっとりとした味わいの逸品です。

収穫期
11月～12月



農産物直売所

四季を通して旬の野菜などが並ぶ直売所

JAふくしま未来農産物直売所

桑折フレッシュBOX

桑折町の農家が丹精込めて育てた採れたての野菜や旬のくだもの、米や花の他、加工物なども人気です。



◆営業時間…10:00～17:00(季節によって変更あり)
TEL 024-582-2272

専門農協伊達果実農産物直売所

だてかベジフル

毎日農家から届く新鮮な野菜やくだもの、米や花卉、加工品なども豊富。夏にはソフトクリームも販売！



◆営業時間…季節によって異なります
TEL 024-582-2175

桑折町年表

	時代	桑折の歴史	国内外の歴史
旧石器	25000年前	平林遺跡の旧石器人の生活(県内最古級)	
古墳	600頃	錦木塚古墳が造られる	聖徳太子の政治
飛鳥	645年		大化の改新
平安	1171年	この頃までに伊達郡が信夫郡から分立	
鎌倉	1189年	源頼朝が奥州藤原氏を滅ぼす、常陸入道念西(のちの伊達朝宗)親子が手柄、戦後、伊達郡に入市する	このころ、鎌倉幕府成立
	1200年頃	下万正寺遺跡に瓦葺きの建物が建てられる。	源頼朝が永福寺建立
	1285年頃	伊達政依、臨済宗寺院を5ヶ寺建立する	
	1333年		鎌倉幕府滅亡
室町	1338年	伊達行朝、南朝の北畠顕家の軍団に従軍し、敗北	このころ、南北両朝に分かれ、対立
戦国	1532年	このころ、伊達植宗が桑折西山城を築いて本拠とする	
安土桃山	1591年	伊達氏が去る	
	1598年	上杉氏の領地となり、その後、半田銀山が本格的に開かれる	江戸幕府成立
	1618年	西根下堰が造られる	
	1634年	西根上堰が完成する	
	1747年	半田銀山が幕府直山となる	
	1773年	信達地方の村々が蚕種本場として認定される	
	1800年頃	半田銀山が最盛期を迎える	
	1819年	半田に京都祇園囃子が伝えられる	
明治	1854年	このころより信達地方産の絹が主要輸出品目となる	開国
	1866年	半田銀山が閉山	
	1868年		戊辰戦争、明治維新
	1874年	五代友厚が半田銀山経営を開始する	
	1883年	伊達郡役所が建造される	
昭和	1891年	このころ伊達郡でモモの栽培がはじまる	
	1945年		太平洋戦争が終わる
	1950年	半田銀山が休山となる、以後試掘が続けられる	
平成	1955年	1町3村が合併し、新桑折町が誕生 このころから、養蚕から果樹(主にモモ)への転作が進められる	このころ昭和の大合併が推進
	1995年	この年より皇室宮家への桃の献上を始める	
	2004年	桑折町、合併協議会を離脱し、合併せず単独立町で歩むこととする	

歴史散歩ルートマップ

番号	名称
1	旧伊達郡役所
2	桑折西山城跡
3	観音寺観音堂
4	観音寺奥の院聖観世音菩薩坐像
5	伊達朝宗の墓所
6	万正寺の大力ヤ
7	つつじヶ岡遺跡
8	無能寺の笠マツ(御蔭廼松)
9	桑折寺山門
10	諏訪神社(諏訪神社例大祭・御柱里曳)
11	伝来寺の梵鐘
12	桑折代官所跡の解説板
13	大安寺の梵鐘
14	桑折代官寺西重次郎封元の墓所
15	芭蕉の田植塚(法圓寺)
16	奥州・羽州街道追分
17	陣屋の杜公園(旧山八別荘)
18	西根上堰芝堤頭首工
19	旧平沢屋庭園
20	葛の松原碑
21	佐藤新右衛門の墓所(大安寺)
22	行幸啓記念碑
23	蒸気のサクラ
24	満蔵寺の馬鳴堂
25	半田銀山遺跡
26	半田銀山中舗跡
27	八幡神社(半田京都祇園囃子)
28	益子神社(半田京都祇園囃子)
29	錦木塚古墳
30	桑折町種徳美術館
31	蓬田半左衛門の墓所
32	羽州街道跡(早田伝之助宅)
A	桑折フレッシュBOX
B	だてかベジフル

